

令和4年度第1回学校運営協議会議事録（対面とオンラインの併用）

日時 令和4年5月31日

時間 15:45～17:00

（出席者 敬称略）

【委員】

- 飯島 正徳 （東京都市大学知識工学部教授）
- 内川 隆 （本校同窓会長）
- 大石 進 （桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部客員教授）
- 佐藤 やよい （青葉区福祉保健センター子ども家庭支援課学校連携・こども担当課長）
- 鈴木 秀幸 （青葉区大場町在住）
- 久保田香織 （本校PTA会長）
- 竹下 恭子 （横浜市立市ヶ尾中学校長）
- 西村 明展 （本校おやじの会）
- 横澤 孝泰 （あおば支援学校長）
- 佐藤 弘之 （本校校長）

【事務局】

- 河合 義昭 （本校副校長）
- 伊藤 育生 （同 教頭）
- 齋通 勇 （同 事務長）
- 大矢 真 （同 学校運営協議会担当）
- 藤井 美帆 （同 学校運営協議会担当）
- 吉宗 和真 （同 学校運営協議会担当）

（欠席者）

- 齋通 勇 （同 事務長）

【本校各グループリーダー】

- 本屋敷隆裕 （本校 キャリア支援グループリーダー）
- 吉居 英明 （同 生徒会支援グループリーダー）
- 伊藤 和久 （同 生徒指導グループリーダー）
- 木村 秀樹 （同 管理運営グループリーダー）
- 佐野 英樹 （同 地域連携・広報グループリーダー）
- 吉行 伸 （同 カリキュラム開発グループリーダー）

1 校長挨拶

2 委員紹介

3 本校関係職員紹介

4 会長挨拶

5 報告事項 《○委員、●学校》

(1) 令和3年度学校運営協議会について

●本年度の委員ならびに校内関係者は先ほど紹介した通りである。部会は学校評価部会と地域協働部会の二つある。本年度の学校運営協議会の日程は資料の通りである。

(2) 学校からの報告事項

●入学式は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から生徒一人につき保護者一名、また、国歌斉唱は声を出すのではなく心の中で歌う形にし、無事に行うことができた。

●遠足については4月21日に3学年とも開催した。1年生についてはカレー作りを行った。新型コロナウイルス対策として黙食を徹底したこともあり、遠足による感染者はいなかった。

●芸術鑑賞会では相模女子大学グリーンホールにてオーケストラによる「クラシックコンサート」を鑑賞した。来年は演劇の鑑賞を予定している。

●体育祭については、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、3年生の生徒1名につき保護者1名のみ公開する制限を施した上で開催する予定である。

●今の3年生が2年生の時に修学旅行を実施できなかったため、その代替行事を6月13日から2泊3日で行う。

●令和3年度の進路実績については、令和元年度と比較して国公立大学への進学者が11人から21人とおよそ倍増し実績を伸ばしている。就職者は3名から0名となっている。また令和3年度の横浜国立大学の合格者数が、令和元年度の2名から倍増して4名となっている。横浜市立大学の合格者数は2名から5名、東京都立大学は1名から5名と実績を伸ばし、東京大学に1名合格した。

●学校広報については、資料記載の通りに行う予定である。

●部活動の実績については、本校正門横に横断幕を設置しておりダンス部や書道部が全国大会に出場し、野球部は春季大会ベスト 16 位になり市ヶ尾高校で初めて夏季大会のシード権を獲得した。

●県立高校地域協働活動支援事業について、令和 2 年度に希望調査があったため地域防災物品保管物置を希望し購入した。本来昨年度に報告するものであったが失念していた。消耗品として毛布 50 枚の購入も希望したが叶わなかった。今後この物置を活用していきたい。

○地域防災物品保管について、地域防災拠点に指定されている等ではないかと思うが、地域との連携をしているのか。

●まだ進んでいない。今後これを機に何かできることがあればと思っている。

(3) 学校目標等について

●4年間の目標は令和 2 年度に策定したものであり、その 3 年目にあたる。取組の内容において「総合的な探究の時間」が何度か出てくる。本校は「総合的な探究の時間」の研究指定校の 3 年間を終え、令和 4 年度から 3 年間引き続き研究指定校となった。

[1 教育課程・学習指導]

○本校の育てたい人物像が何なのか分かりにくく、具体的な方策と言いながらあまり具体的にないように感じる。

●育てたい人物像は本校のグランドデザインとリンクさせた目標であるためこのような書き方になっている。本校のホームページにスクールポリシーとして掲載している。具体的な方策として、例えば双方向のオンライン授業がある程度整備することができた。県の方針としてオンライン授業は一斉に行うのではなく学年で区切って行うことになったため、学校独自で行うのは難しかった。

[2 生徒指導・支援]

○「総合的な探究の時間」は 3 年前から行われていて新型コロナウイルス感染拡大の中であまり進んでいないのは承知しているが、生徒が自由に問題を設定して探究するという点について今後また 3 年間での具体的な方策は出ているか。

●テーマを見つけること、自分で設定することは難しいと思う。探究のプロセスを踏まえた考え方を定着させるのがスタートだと思っている。現状は調べ学習までしかできていない。校外でのインタビューや外部の人を呼ぶことで学習を深められると思うが、学校行事との兼ね合いもあり難しい。

○単純なことから「なぜ？」と調べて学習していけば、その先のテーマの設定を楽にできると思うのでよろしくをお願いします。

○外部との連携は行っているか。

●連携もなかなか難しい。最後の発表はオンラインだった。

○やりたいことを見つけるのに半年かかることもあるが、最後まで出来なくても何かを考えるきっかけになればいいと思う。

○「遅刻指導等の日常的な指導を徹底することで、道徳観や規範意識を高める」とあるが、指導では道徳観は育たないと考えている。「遅刻をしてはいけない」という文化を作ることや、「なぜ遅刻をしてしまうのか」を考え子どもたちの全体的な環境を整えることが必要なのではないか。

[3 進路指導・支援]

○（鈴木様から竹下様へ）市ケ尾中学校から市ケ尾高校に進学する生徒は多いと思うが、どんな生徒が進学しているか。

○全員にあてはまるか分からないが、例えば「総合的な探究の時間」をみて選ぶ生徒がいる。自分で探究したいテーマを持っていることを面接練習で言う生徒もいる。「総合的な探究の時間」が身近な学校選びの1つとなっている。

○（鈴木様から大石様へ）高校生を受け入れる側としてはどうか。

○自主・自律的に課題を見つけ、それを掘り下げて解決できる学生が来てほしい。

○（鈴木様から久保田様へ）現役生がいる久保田さんはどうか。

○娘が3年生。入学時から新型コロナウイルスの時世なので、それによって様々なことを諦めざるを得なくなっている。制約された生活が当たり前になっているので、自分から行動を起こしてくれたらいいと思う。

[4 地域等との協働]

○なかなか思ったことができない。自治体でも新しいことをしたいが役員が高齢化している。ホームページなどを作りたくても高齢者では難しい。高校生なら可能なのではないかと思うので、そういったところで連携できたらいいと思う。例えば防災関係で連携するなど、面白いことを高校生と一緒にやりたいのが本音である。具体的に学校側で何かやりたいことがあれば挙げてほしい。

○「成年年齢」の引き下げについて、高校では何かしているか。

●昨年度は「消費生活」についての講演会を1・2年生向けに、「TORANOTEC（株）」の社員を招いて家庭科の新しいカリキュラムに加わる「金融教育」の講演会を現

2年生に向けて行っている。今年度はまだ計画が立っていないので、講演会など何かできることを模索している。

○成年年齢の引き下げによって、子どもたちは自分たちで判断できることが増える。今までは学校でお金の問題は取り上げにくかったが、これから子どもたちに一生を通じて関わってくる。保護者向けの講演会もやっていたことがある。ファイナンシャルプランナーの活用をしてみたらどうか。

〔5 学校管理・学校運営〕

○管理にあたってやりたいことや大変なことを先生方に聞いてみたい。

○巷では「教師の世界はブラックである」と言われており、正直外部の人間からはその現状が見えない。働きやすい環境を作ることが子どもたちのためにもなる。早く帰ればいいというわけではないが、休む時は休むのが大事である。先生方は定時を過ぎても学校や生徒のことを考えていると思うが、仕事とプライベートの区切りができたらいいいと思う。

（4）その他 【質疑応答、意見】

○学校評価報告書の「具体的な方策」の中に「長時間勤務の是正」がある。前から言われていることだが、時間というより質の問題ではないか。ストレスのある仕事を減らすことが大切である。教員免許がなくてもできる仕事は減らした方がいい。専門性が要求される仕事、自分の教科に関係のあることに専念してほしい。例えば、自転車の指導は先生の仕事か。民間企業なら手当がつか業務だが、朝の指導をしてもその分早く帰れるだけである。やらないで帰れるならその方がいいのではないか。

○市が尾駅から学校に向かう坂道での自転車の通行に関する問題については、自転車を横断させてまで右側通行させると横断歩道を2回渡らせることになる。ルールだからといってそれで安全なのか。道路交通法では、自転車は車両なので車道を走るのが一般的で、歩道を走るときは歩行者優先で車道寄りを走るとされているが、警察署と連携しているか。

●警察との連携はしていないが、坂道を下ってくる生徒の中には徐行をしていない者がいるので指導している点をご理解いただきたい。

○ルールというよりマナーを作ることが大切である。警察の車両は自転車走行する大人に対して意外と注意していない。高校生だけに注意するのはどうかと思っている。市ケ尾高校は自転車通学が多い。一部だけではなく全体を考えないと改善しない。他校では自転車で安全に通学するために何が必要かを考え、学校周辺の道路について調べ、実際にその場に行くような取り組みをしている。学校全体・保護者で統一した見方を形成する必要がある。そうすれば、先生方が外に出て指導しなくても良くなるのではないか。

●その他、佐藤様はいかがか。

○「4 地域等との協働」が一番関わりのあるところかと思う。新型コロナウイルスの状況により外部から学校の中に入りにくいのが、何かできればと思う。今すぐではないが、「子ども家庭支援課」から出張ラフールを市ヶ尾高校でできたらと考えている。命の授業の一環として連携したい。検討していただきたいと思う。

●要請があればぜひ検討したい。

6 その他

●前回の会議の最後に会長から報告があった件について。44期生の吉沢春陽が、溝の口を拠点に経済的に塾に行けない子を対象に勉強を教える活動をしており、彼が6月5日17時25分～テレビ朝日の番組『二十歳の挑戦』に出演する。ぜひご覧いただきたい。

○ダンス部が開港記念日にステージに出演する。結構ダンス部が活躍している。皆さん行ける方は観に行かれてはどうか。

●次回の開催日の確認。次回は令和4年11月12日（土）で、その日はオープンスクールを予定している。